校内研究計画

１　研究主題

自分の思いや考えを表現することができる児童の育成(一年次)
ー読む力を高める学習指導の工夫を通してー

２　主題設定の理由

（１）学校教育目標の具現化から

本校では,「豊かな心をもち，心身ともに健康で進んで実践する子どもを育成する」を学校教育目標に掲げている。また，その目標の具現化を図るために,「徳」「知」「体」でそれぞれ目指す児童の姿を設定している。中でも「知」は「よく考え進んで発表する子ども」と設定し，自ら学ぶ学習態度の育成とペアやグループでの学び合いの充実に努めている。それを受けて,「よく考える＝教材と出会い，自分の考えをもつ」「進んで発表する＝考えや思いを進んで相手に的確に伝える」児童の姿を目指して指導の充実を図っている。「思いや考えを進んで相手に的確に伝える」ためには,「教材と出会い，自分の考えをもつ」ことが大切である。教材文の言葉に着目し，筆者の考えや登場人物の心情を正確に読み取ること，すなわち「自分の考えをもつための読みを中心とした言語活動」が大切である。そのような視点から，本主題を設定することで，学校教育目標及び目指す児童の姿「知」の具現化が図れると考えた。

（２）昨年度の校内研究から

昨年度は，研究主題・副題を「筋道を立てて考え，表現する児童の育成～算数的活動における指導の工夫を通して～」と設定して研究を進めてきた。その結果，既習内容に着目させ，学習問題の提示を工夫して題意を正確に把握させたことで，児童は，問題解決に向けて考えをもてるようになった。また，自分の考えを書くことを意図的に設定したことで式だけでしか表せないようなことがあまり見られなくなり，図や数直線やグラフなどを使って自分の考えを書いて表現する力が付いてきた。また，ペアやグループなどでの考えの交流のさせ方を工夫し，意図的に設定することは，考えの交流の意欲を高めることと，友達の考えについても取り入れようとすることに効果的であることが明らかになった。

一方で,自分の考えを表現するときに適切な算数用語を使って分かりやすくまとめて書くことや,自分の考えを全体に分かりやすく話して説明することは学校全体としては意欲面でも技能面でも十分高まったとはいえなかった。書くことや話すことによる表現する力は算数の授業だけでなく，国語を中心とした他教科でも意識して指導し，高めることの必要性が感じられた。

（３）児童の実態から

昨年度の全国学力学習状況調査では，ほとんどのテストにおいて県平均を上回った。しかし，国語では文章の内容を読み取ったことを書いて表現することが苦手な傾向が見られた。また，昨年度実施した「CRT標準学力検査」（国語・算数）では，特に国語科の「読むこと」「言語」において全国平均を下回った学年が多かった。さらに，日常の国語の学習でも，筆者の考えや登場人物の心情を読み取る力や自分の考えを書いたり話したりする表現力を支えるスキルと語彙力は十分とは言えなかった。このような実態から，国語の学習において表現力を向上させるための前提として読む力を高めることが必要であると考えた。

そこで,「自分の思いや考えをもち，分かりやすく表現する」児童を育成するための指導の在り方を明らかにしていくことを見据え，今年度は，自分の考えをもつための前提である「読むこと」の力の向上に焦点を当て，国語科において，３年計画で研究を進めていくことにした。以上の理由から，本主題・副題を設定した。

３　研究主題・副題について

（１）「読む力」について

「読む力」については，学習指導要領「読むこと領域の目標」とし，具体的には「各学年における読むことの指導事項」に示されている６項目のことができる能力を読む力と捉え，以下のようなキーワードとして押さえる。

	低学年	中学年	高学年
読むこと領域の目標	**書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり，想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに，楽しんで読書しようとする態度を育てる。**	**目的に応じ，内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに，幅広く読書しようとする態度を育てる。**	**目的に応じ，内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに，読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。**
音読	語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。	内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること	自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること
効果的な読み方			目的に応じて，本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。
説明的な文章の解釈	**時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。**	**目的に応じて，中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え，文章を読むこと。**	**目的に応じて，文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり，事実と感想，意見などとの関係を押さえ，自分の考えを明確にしながら読んだりすること。**
文学的な文章の解釈	**場面の様子について，登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。**	**場面の移り変わりに注意しながら，登場人物の性格や気持ちの変化，情景などについて，叙述を基に想像して読むこと。**	**登場人物の相互関係や心情，場面についての描写をとらえ，優れた叙述について自分の考えをまとめること。**
自分の考えの形成	文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。	目的や必要に応じて，文章の要点や細かい点に注意しながら読み，文章などを引用したり要約したりすること。	
交流	文章の内容と自分の経験とを結び付けて，自分の思いや考えをまとめ，発表し合うこと。	文章を読んで考えたことを発表し合い，一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。	本や文章を読んで考えたことを発表し合い，自分の考えを広げたり深めたりすること。
目的に応じた読書	楽しんだり知識を得たりするために，本や文章を選んで読むこと。	目的に応じて，いろいろな本や文章を選んで読むこと。	目的に応じて，複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

３　研究目標

児童の読む力を高め，自分の思いや考えを表現することができるようにするための学習指導の在り方を，国語科における授業実践や常時活動を通して明らかにする。

４　研究の視点

以下の視点から手立てを講じることにより，「読む力を身に付けた児童を育てる」国語科の学習指導の在り方を追究する。

［視点１］　身に付けさせたい読む力を高める言語活動を位置付けた単元構成の工夫。

［視点２］　大切な言葉や文に注目させ，教材文を正確に読み取らせるための手立ての工夫

○　研究の視点１の言語活動について

以下のような学習指導要領に示されている言語活動や開発した言語活動を設定する。

各学年における「Ｃ読むこと」の言語活動例

低学年	中学年	高学年
ア　本や文章を楽しんだり，想像を広げたりしながら読むこと。	ア　物語や詩を読み，感想を述べ合うこと。	ア　伝記を読み，自分の生き方について考えること。
イ　物語の読み聞かせを聞いたり，物語を演じたりすること。	イ　記録や報告の文章，図鑑や事典などを読んで利用すること。	イ　自分の課題を解決するために，意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。
ウ　事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。	ウ　記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。	ウ　編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと。
エ　物語や，科学的なことについて書いた本や文章を読んで，感想を書くこと。	エ　紹介したい本を取り上げて説明すること。	エ　本を読んで推薦の文章を書くこと。
オ　読んだ本について，好きなところを紹介すること。	オ　必要な情報を得るために，読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。	

○　研究の視点２の具体的な手立て

［視点２］教材文を正確に読み取らせる手立ての工夫

○　大事な言葉や文，表現を洗い出し，注目させることで筆者の考えや登場人物の心情を的確に捉えさせる。（発問，課題，サイドライン，視写，ノートやワークシートの工夫等）

○　語彙を増やすための工夫（意味調べ，掲示物等）

５　研究の内容・方法

（１）授業研究：全学級で研究授業を行い，研究の視点の具体的な手立ての効果を検証する。

○　全校授業・・・全教職員が参観する研究授業を行う。

○　学年授業・・・校長，教頭，主幹教諭，教務主任，研究主任，同学年の教員，他の学年で参観できる教員の参観のもとに研究授業を行う。

（２）理論研究

○　自分の考えや思いをもち，表現力を高めることにつながる言語活動の開発や工夫の在り方を追究するためにの文献研究や，先進校への視察，講師を招聘した研究会などを行い，国語科の指導力向上を図る。

（３）実態調査

○　１月に「CRT標準学力検査」を実施し，児童の学力についての実態を把握するとともに，個に応じた指導の充実を図る。

○　全児童対象の国語の学習における意識調査を実施し，学習指導の参考とする。

○　全国学力学習状況調査結果を分析し，効果的な指導法の共有化と，身に付けさせたい学力の明確化を図る。

６　研究組織

（１）研究全体会（全教員対象）

○　研究全体計画の検討，授業研究の事後検討，研究全体のまとめと検討

（２）研究推進委員会

（校長，教頭，主幹教諭，教務主任，研究主任，研究副主任，研究推進委員（各学年１名））

○　研究推進計画の作成・検討，研修会の企画・実施

（３）研究部会

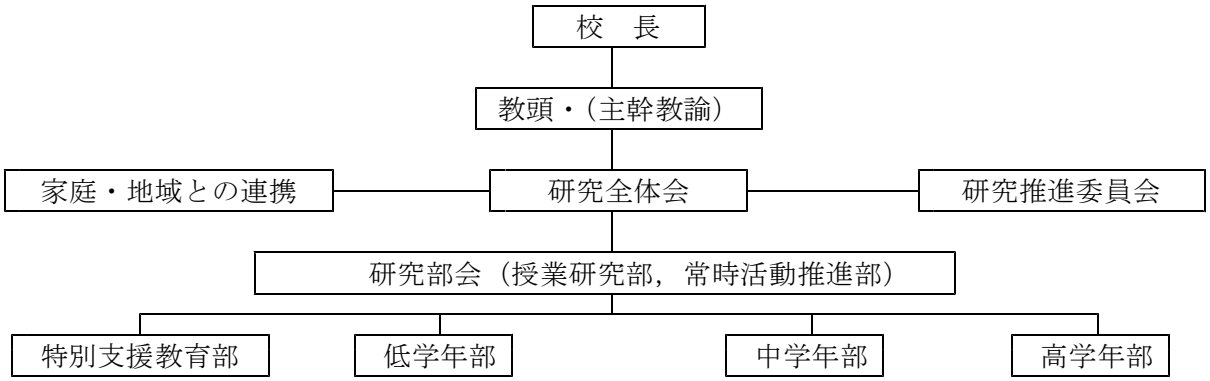
１）「授業研究部」（２名　研究推進委員含む）→校内研究に基づく学年研究の推進
学力向上の具体的な取組の計画立案・推進

２）「常時活動推進部」（１～２名）→国語の家庭学習や朝学習，ＮＩＥタイムの計画や準備

（４）学年会

○　日常の学習指導や家庭学習などについての話し合い
○　研究授業や学年授業の計画と実践
○　CRT学力検査の分析

〈研究組織図〉



7　研究計画

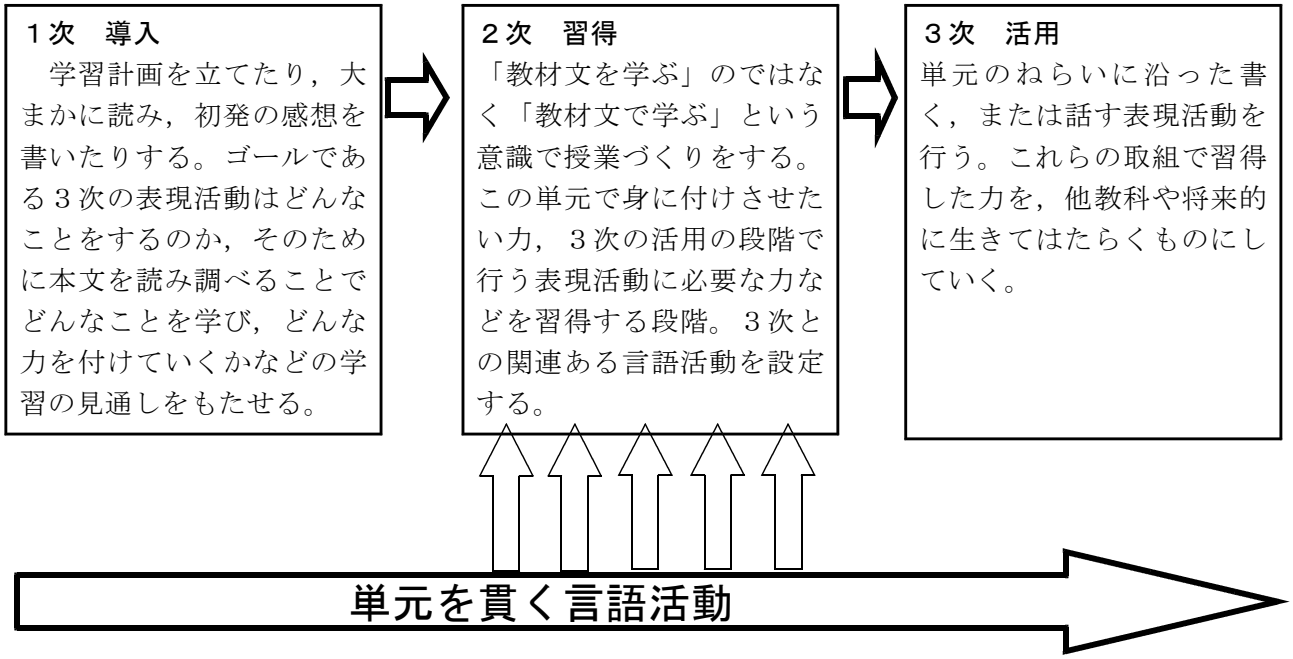
基本的に毎週木曜日が研修日となる。授業研究や会議等がないときは，学年研修となる。

月		内　　容
4	３日（木）	○校内研究の方向性提案（職員会議）
	10日（木）	○第１回研究推進委員会 ※「研究主題・副題」「研究仮説」の確認 「仮説に基づいた目指す児童の姿」「研究の計画」等の検討
	15日（火）	○校内研究全体会 ※「研究主題・副題」「研究仮説」の確認 「研究仮説」「仮説に基づいた目指す児童の姿」「研究の計画」等の検討
5	１日（木）	○第２回研究推進委員会 ※「学習指導案」形式の検討等
6	５日（木）	○４学年授業研究，事後検討会（授業づくり研修会）
	26日（木）	○６学年授業研究，事後検討会
7	25日（木）	○授業づくり研修会(外部講師招聘) ○第３回研究推進委員会
9	９日（木）	○２学年授業研究
	22日（木）	○指導主事訪問
１０	３日（金）	○１学年授業研究，事後検討会
	30日（木）	○３学年授業研究，事後検討会
１１	６日（木）	○たんぽぽ授業研究，事後検討会
	19日（木）	○５学年授業研究，事後検討会
	21日（木）	○第４回研究推進委員会　　※「研究のまとめ」検討　等
1	15日（木）	○ＣＲＴ標準学力検査
	20日（木）	○第５回研究推進委員会 ※今年度の校内研究の反省，次年度の校内研究について
2	５日（木）	○研究全体会

		※今年度の校内研究の反省，次年度の校内研究について
	12日（木）	○研究のまとめ製本作業

８　授業づくりの在り方

（１）単元を貫く言語活動を位置付けた単元構想



【言語活動の押さえについて】

言語活動については，「単元を通した言語活動」と「一単位時間の中で取り組む言語活動」の２つの側面から捉える。

「単元を貫く言語活動」

子供に身に付けさせたい力を明確にし，単元を通して設定していく言語活動と押さえる。単元の構成は大きく３つからなる。

「一単位時間の中で取り組む言語活動」

単元を通した言語活動を支えるために，一単位時間の中で意図的に取り入れる書く活動や音読などの具体的な手立てとしての言語活動である。単元のねらいを踏まえ，学習の目的を明確にした上で，書く，読み取る，話し合うなど個々の活動を一単位時間の中に効果的に取り入れていく。

９　読む力の系統性の各項目

（１）文学的な文章

①声に出して読むこと
②読み取る
③詩，俳句，短歌を声に出して読む
④読み深める
⑤読み広げる
⑥読解して表現活動を行う

（２）説明的な文章

①正確に読み取る
②比べ読みをして表現の工夫を読み取る
③情報を収集して活用する
④多面的なものの見方や考え方を身に付ける

例　説明的な文章②「比べ読みをして表現の工夫を読む取る」の場合

学年	②比べ読みをして表現の工夫を読み取る力
１年	
２年	**ふろしきはどんなぬの** カードに書かれた箇条書きの文と本の文章を読み比べ，形式による書き表し方の違いを捉える。
３年	**「ほけんだより」を読みくらべよう** 二つの文章を読み比べ，事柄の取り上げ方や説明の仕方の違いを捉える。
４年	**広告と説明書を読みくらべよう** 広告のちらしと取扱説明書を読み比べ，目的による表し方の違いや述べ方の工夫を捉える。
５年	**新聞記事を読み比べよう** 二つの新聞記事を読み比べ,書き手の意図によって記事の内容や写真が変わることを捉える。
６年	**新聞の投書を読み比べよう** ４つの投書を読み比べ，読み手を説得するための根拠の挙げ方を捉える。

学年部の研究計画

提出期限　４月２４日　大矢まで

研究の単元名	説明的な文章・文学的な文章		
全校研授業日		授業者	
学年部研究授業		授業者	
		授業者	
		授業者	
単元のねらい			
身に付けさせたい読む力			

単元の構想（大まかに）

１次 見通す	２次 習得する（読む力を身に付ける）	３次 活用する（生かす）

常時活動推進（国語）どんな力を付けるための取組かわかるように記入して下さい。

朝学習	
家庭学習	音読（すらすらと音読できる力を付ける。　　） 漢字練習（
その他（あれば・・）	

学年の研究の役割分担

研究推進委員	
授業研究部	
常時活動推進部	